

『膝専門外来』スタート！



2023.8
no.201

飯塚病院だより

飯塚病院だより no. 201

2023年(令和5年)8月10日 編集・発行 飯塚病院 広報課 印刷 マツオ印刷株式会社

01 救急外来の受付時間のお知らせ

救急外来の受付時間をお知らせします。
ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。
平日(月～金) 16時30分～22時30分
休日(土・日・祝) 8時30分～22時30分

当院を受診される際は左記のものをお持ちください。

- ・保険証
- ・診察券
- ・お薬手帳(現在、処方されている全てのお薬がわかるもの)
- ・その他(障がい者手帳、ペースメーカー手帳など)

救命救急センターを受診すべきか迷う場合には、電話相談窓口をご利用ください。

- 小児の急な発熱やケガなどは…
福岡県小児救急医療電話相談「#8000」
- 救急車を呼ぶべきか迷ったら…
救急相談の窓口「#7119」



救急外来
ご協力をお願い

02 ホームページをリニューアルしました

2023年7月に当院のホームページをリニューアルいたしました。
より見やすく、使いやすいホームページを目指して、トップページのデザインや構成を見直しました。スマートフォンやタブレットでの表示に対応したデザインとなりましたので、デバイスを問わず見やすくなっています。
これまで以上に、みなさんにわかりやすく情報をお伝えできるように努めてまいります。



飯塚病院
ホームページ



旧トップページ



新トップページ

03 飯塚病院公式LINEで医療に関する「知っ得」情報をお届けしています。

友だち登録の手順

友だち登録して最新情報をゲットしてください！

- ① QRコードから友だち追加
↓ QRコード
- ② 左のQRコードを撮影
- ③ 追加をタップで登録完了

LINE公式アカウント
医療に関する「知っ得」情報を、LINEでお届け。

飯塚病院

「膝専門外来」とは…



当院の整形外科では2023年5月より「膝専門外来」(完全予約制)を開設しました。膝専門外来では、膝の靭帯損傷や断裂、骨折などの外傷性疾患や変形性膝関節症など加齢が原因となる疾患など、さまざまな疾患に幅広く対応しています。

診察日は火曜・木曜・金曜日の午前中で、対象の患者さんは膝痛などの膝の症状を主訴に、整形外科受診を希望される方です。完全予約制ですので、紹介状の有無に関わらず、整形外科外来0948-22-3800(代表)へお電話いただき、予約をお取りください。紹介状をお持ちでない方は、診療費とは別に選定療養費をいただくこととなりますので、ご了承ください。

専門外来の開設によって、当院が求められる役割を果たし、地域貢献できるよう取り組んでまいります。膝の痛みでお困りの方、ご興味をお持ちの方は是非ご相談ください。

監修 整形外科 藤村謙次郎

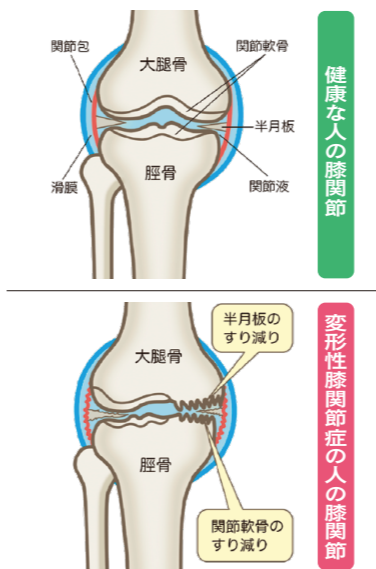


特集 『膝専門外来』 スタート！

当院では、2023年3月に変形性膝関節症の治療に手術支援ロボットの導入しました。今回は、変形性膝関節症に対する治療方法や手術支援ロボットについてご紹介します。

変形性膝関節症とは

「変形性膝関節症」は、膝関節が変形し、軟骨がすり減ることで痛みがともなう疾患です。膝には内側と外側に関節があります。特にその内側が傷んで変形や痛みが生じるケースが多いです。関節を支えている靭帯が緩んで、ぐらつくようになり、関節を安定させている半月板が傷んだりということもあります。O脚の方がなりやすい傾向にあり、40代〜50代で症状が出始める方が多く、加齢とともに起こりやすいたことが特徴です。



変形性膝関節症に対する治療

変形性膝関節症の方は非常に多くおられます。ヒアルロン酸注入で痛みが許容内に治まっている方は無理に手術を行う必要はありませんし、痛みがあっても手術を避ける方もおられます。最近話題のPRP療法※という再生医療がありますが、やはり痛みがなくなることは難しいということがわかっていきます。

痛みがある方は活動量を減らすと痛みが軽減するのは事実です。しかし活動量を減らすと筋力・筋量が徐々に低下して何年後かには転倒しやすくなり、最終的には寝たきりに近づいてしまいますので、活動量を減らすことはあまりお勧めできません。また、強い痛み止めを使用することも腎機能障害や胃潰瘍の危険性を心配する必要がありますので、長期で使用することはあまり望ましくありません。そのため、痛みが気になる方は将来のことを考えて、手術を受け、活動量を維持していくことが理想的です。

※PRP療法とは
患者さん自身の血液から抽出した「多血小板血漿（PRP）」を患部に注射し、自然治癒力を促進する再生医療。変形を治すわけではなく、痛みを軽減させる効果があります。半年〜1年で効果が減弱するため、定期的に注射する必要があります。自由診療であり、当院で行っていません。

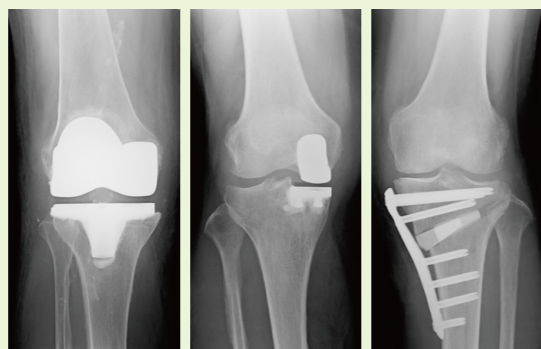
変形性膝関節症に対する手術療法

手術には「骨切り術」と「人工関節置換術」があり、年齢・変形の程度で手術方法を決めています。特に人工関節置換術は現在国内で年間15万人の方が受けており、有床診療所でも手術が行われるほど、非常に一般的な手術となりました。昔は15〜20年経過したら入れ替えの手術が必要だといわれていましたが、現在ではほぼ確実に20年以上の耐久性があり、おそらく30年・40年は大丈夫といわれています。当院では、左上の写真のように患者さんに最適な治療法を提供しています。

手術直後は麻酔が効いているため痛みを感じませんが、その麻酔が切れてくると痛みが出

てきます。ほとんどの患者さんは手術翌日が痛みのピークですが、痛みは徐々に軽減し、3週間程度で弱い痛み止めを継続しながら、杖歩行が可能となり退院されます。いろいろな薬剤で手術翌日以降の痛みも軽減できるように工夫していますので、食事や喉を通らないというほどの強い痛みは稀です。

変形性膝関節症の手術例



人工膝関節全置換術 単顆型人工膝関節置換術 高位脛骨骨切り術

人工関節手術支援ロボット ROSA Knee システム

当院では3月からロボットを使用した手術を開始しました。ロボットといっても手術をすべて行ってくれるわけではなく、主に医者が手術を行い、骨を正確に決めた角度で切るために支援してくれるというものです。

特に「人工膝関節全置換術」では、骨を削る量や人工関節をどのように設置するかにおい



て執刀医の経験や技術・感覚が担うところが大きいといわれています。この人間の感覚によって行われている重要な部分を、術中にロボットが評価計測を補助し、執刀医の骨切りや人工関節の設置位置をガイドすることで、より正確で精度の高い安定した手術を可能にするのが手術支援ロボットの役割です。手術の精度が担保されることにより、
・人工膝関節の長期耐用性
・少ない侵襲で患者さんの負担軽減
が期待されます。



人工関節が安定する適切な位置を手術中にリアルタイムで確認しながら、ミリ単位の微調整が可能。

最後に

人工関節手術は80%の方が満足してくれていますが、20%の方は「もっとよくなると思っていた」と不満を感じていると報告されています。ロボット支援手術で手術後に不満を感じる方を一人でも減らすことを目標として、私たちは日々努力しています。

また、2020年7月から保険適用となり、高額療養費制度の対象となりました。患者さんの希望と適用条件が合えば、高齢の方でも手術を受けていただくことが可能ですので、膝の痛みで困っておられる方や興味のある方は是非ご相談ください。

